保険付き　最少催行人員　専門ガイド同行　相部屋OK(条件付き)

コースNo. 102 ★東京発着

ヨーロッパに学ぶ自然と人に優しいまちづくり
ドイツ自然エネルギー政策とまちづくり視察研修

10日間

旅行代金(東京発着) お一人様あたり

出発日	旅行代金(燃油サーチャージ込)
8月25日(火)	**448,000円**
札幌・名古屋・大阪・福岡国内線追加代金(JALのみ、往復)	22,000円
1人部屋追加代金	80,000円
相部屋条件:6/15までの相部屋希望を受付けます。期日以降はP5をご覧ください	

■食事:朝食8回・昼食0回・夕食0回(機内食を除く)
■最少催行人員:6名(定員18名)
■添乗員:添乗員は同行しません。現地係員がお世話します。
■利用予定ホテル:カールスルーエ…アチャットプラザカールスルーエ、エデン
フライブルク…インターシティ、ノボテルフライブルグアムコンツェルトハウス、セントラル、スタットフライブルク、メルキュールホテルフライブルクアムミュンスター
フランクフルト…エクセルシオール、インターシティホテルフランクフルトハウプトバーンホフズード、トーヨコイン フランクフルト セントラルステーション
■利用航空会社:フィンランド航空(エコノミークラス)
■パスポート残存期間:出国時3ヶ月以上+旅券の査証欄の余白が2ページ以上必要
※下記は旅行代金に含まれませんので、旅行代金と合わせてお支払いください。(2020年3月1日現在)
日本国内の空港施設使用料(成田:2,130円)、旅客保安サービス料(成田:530円)および国際観光旅客税1,000円
※フランクフルトのホテルは滞在税が別途かかります。チェックアウト時にお一人様1泊あたり2ユーロ(2020年3月1日現在)をお支払い下さい。
【札幌・名古屋・大阪・福岡発着の方へ】
国際線の発着は原則成田空港となり、国内線は別手配となります。満席等で予約できない場合はご利用いただけません。基本、往復羽田便での手配となり、羽田～成田空港間は各自移動、交通機関はお客様自身の手配・負担となります(移動例:リムジンバス片道3,200円/2020年3月1日現在)。また、乗り継ぎによって前後泊となる場合も宿泊費はご自身の負担となります。P33の注意事項を必ずご確認下さい。

日　程

1	8/25(火)	成田 ✈ フランクフルト 🚌 カールスルーエ	10:00～13:00 空路フランクフルトへ(ヘルシンキ乗換え) 16:00～19:00 到着後出迎えを受け列車またはバスでカールスルーエへ。 Hカールスルーエ泊
2	8/26(水)	カールスルーエ(公共交通・徒歩)	専門講師:松田雅央氏の案内で視察研修スタート 【午前】クラインガルテンを訪問し都市と自然の共生を見学 【午後】カールスルーエの都市交通政策視察 ・中心市街地の見学・トラム(路面電車)体験乗車 ・トラムのカールスルーエモデル見学・P&R駐車場見学 【夜】「ドイツ一人が主役のまちづくり」著者松田雅央氏との夕食交流会(自由参加・食事代実費) Hカールスルーエ泊
3	8/27(木)	カールスルーエ(公共交通・徒歩) カールスルーエ 🚆 ハイデルベルク 🚆 カールスルーエ	【午前】エネルギーの丘の風力発電と太陽光発電の見学とレクチャー 【午後】ドイツ一古い大学都市ハイデルベルクへ 建設中の環境市街地バーンシュタットの見学 環境都市、学究都市そして国内有数の観光地でもあるハイデルベルグ。旧市街地を歩きながら持続可能なまちづくりについて考えます。 その後自由行動(ハイデルベルク城、哲学者の道など) 【夕刻】カールスルーエに移動 Hカールスルーエ泊
4	8/28(金)	カールスルーエ 🚆 フライブルク(公共交通・徒歩)	【午前】ホテルで係員と合流し列車でフライブルクへ 専門講師:村上敦氏の案内で視察研修スタート 【午後】都市計画・交通計画のレクチャー 市内中心部を歩きながらレクチャーを受けます。 【夕刻】プラスエネルギー・ビルディングの市庁舎視察 Hフライブルク泊
5	8/29(土)	フライブルク(公共交通・徒歩)	【午前】ヴォーバン住宅地の視察とレクチャー 【午後】団地の再生プロジェクトの視察、新興住宅地の視察とドイツのエネルギーシフトの講義 【夜】「フライブルクのまちづくり」著者村上敦氏との夕食交流会(自由参加・食事代実費) Hフライブルク泊
6	8/30(日)	フライブルク(公共交通・徒歩)	【午前】サッカースタジアムのソーラー発電施設見学 【午後】自由行動 Hフライブルク泊
7	8/31(月)	フライブルク	【終日】自由行動。希望者は3国国境の都市スイスのバーゼルへお連れします。(交通費各自負担)　Hフライブルク泊
8	9/1(火)	フライブルク 🚌 ストラスブール 🚌 フランクフルト	【午前】フランスのストラスブールへ コンパクトシティとして名高いフランスのストラスブールを松田雅央氏のガイドで見学します。EU議会見学(予定) 【昼】各自昼食後自由散策(昼食含め3時間半程度を予定) 【午後】フランクフルトに移動　Hフランクフルト泊
9	9/2(水)	フランクフルト ✈	10:00～13:00 係員と共に空港へ。空路帰国の途へ(ヘルシンキ乗換え) ✈ 機中泊
10	9/3(木)	成田	08:00～11:00 着後、入国審査、通関、解散

旅行企画・実施 全国大学生活協同組合連合会 旅行センター

[注]訪問先は訪問先団体・機関や担当者の都合により別の組織や機関に変更になる場合があります。

※一般の観光旅行でないため、宿泊や食事、移動の際には多少のご不便をおかけする場合があります。なお、講師や訪問先の都合により、予定の場所や日時での説明ができない場合があります。また、諸事情により、講演や解説が別の場所や日時に変更される場合があります。
※ホテル(宿泊先)～空港間は参加人数により公共交通機関にて移動する場合があります。
※カールスルーエ/ハイデルベルク間、カールスルーエ/フライブルク/フランクフルトの移動は参加人数により専用バスを利用する場合もあります。

海外旅行保険&サポート付き! CO-OPあんしんダイヤルで24時間対応!

早期学割キャンペーン 10,000円割引 (パンフレット記載の旅行代金より) ●6/15(月)までにお申し込みの方対象。

フライブルクのLRT

カールスルーエ風力発電

エネルギー問題 自分の意見持ってますか?

ドイツの「環境首都」として名高いフライブルクを中心に持続可能な地域社会について、エネルギー、交通政策、まちづくりといった視点から学びます。
様々な視察先をドイツ在住の環境ジャーナリストの解説を受けながら共通の問題意識を持つ参加者(大学生)と巡ることで、単なる視察に終わらず日本を振り返り、視野を広げ、お互いの考えを深めることができるでしょう。

ドイツ自然エネルギー政策とまちづくり視察研修のポイント

①カールスルーエ

「人が主役のまちづくり」をクラインガルテン(市民農園)を訪問し、環境に負荷をかけないトラムに乗り、パークアンドライドの現場を訪れることで体感します。また近郊の古くからの大学都市ハイデルベルクを単なる観光ではなく、環境とまちづくりの視点で見学をします。

②フライブルク

「フライブルクのまちづくり」を体験、理解するために、旧市街地、環境配慮型の住宅地、団地の再生などをトラムで移動し、歩き、都市計画について学びます。また、省エネ建築や地域熱供給、再エネを活用したプラスエネルギー建築などを視察し、日独の制度の違いについても説明を受けながら、意見交換を行います。

③ストラスブール(フランス)

国境を越えてストラスブールに行きましょう! 過去にはドイツとフランスが領有権を争ったアルザス地方に位置し現在は欧州議会や欧州裁判所もあるEUの象徴的な都市です。先進的な都市交通と古い町並みが見事に調和しています。国境のまちを散策することであらたな発見があることでしょう。

環境ジャーナリスト(ドイツ在住)
松田 雅央

ドイツ・人が主役のまちづくり ～ボランティア大国を支える市民活動～

ドイツのまちづくりに欠かせない市民協会は、日本のNPOにあたり、地方自治を育てる学校とも評される。環境保全、コミ収集、保育園運営など様々な社会サービスを支えているのが市民協会のボランティアたち、ユニバーサルデザインが息づき、トランジットモールで賑わいを呼ぶ、そんな暮らしやすい魅力的なまちはいかにつくられるのか。まちづくりを牽引する市民活動の意義や魅力に迫る。(学芸出版社)

BOOK 主な著書「環境先進国ドイツの今」(学芸出版社)

4・5日目以外の現地解説はドイツ在住環境ジャーナリスト松田雅央氏を予定しています。

「ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか」近距離移動が地方都市を活性化する

ドイツのまちは、なぜコンパクトで活気があるのか。日本のコンパクトシティは、なぜ失敗するのか。人口減少・超高齢社会に車主体の交通は成り立たなくなる。車の抑制、住宅地の高密度化、商業施設の集約、公共交通の財源確保など、移動距離の短いまちづくりによって交通を便利にし、経済を活性化するドイツのしくみを解説　(学芸出版社)

BOOK 主な著書
「海外キャリアのつくり方-ドイツ・エネルギーから社会を変える仕事とは?」(いしずえ)
「改訂版:キロワットアワー・イズ・マネー」(いしずえ)
「フライブルクのまちづくり」(学芸出版社)

環境ジャーナリスト(ドイツ在住)
村上 敦

4・5日目の現地解説はドイツ在住環境ジャーナリスト村上敦氏を予定しています。

参考図書

◆「ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか-質を高めるメカニズム」高松 平蔵　(学芸出版社)
◆「フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか-交通・商業・都市政策を読み解く」ヴァンソン藤井由美　(学芸出版社)
◆「なぜドイツではエネルギーシフトが進むのか」田口 理穂　(学芸出版社)
◆「日本の知らない風力発電の実力」安田 陽　(オーム社)

参加者の声

東北大学文学部 2年

私は当初まちづくりの視察がツアーの主な目的だったが、ドイツの先進的な再生可能エネルギーの現実を実際に見て、エネルギー政策にも強い関心を持った。日本にいる間は、「脱原発」「再エネと聞いてもどこか他人事のように感じていたが、このツアーを通して日本が将来目指すべき方向が明確に見えた気がする。また再エネの普及と地方振興が全く別のものではなく、密接に結びついているんだということに気づかされた。ドイツのまちづくりでもエネルギー政策でも計画性を持ちながら後の世代のために住みやすい、豊かな社会を実現しようとする、ドイツ人の姿が印象的だったので私も今後日本において、同じような役割を果たせるように活動していきたい。

各ツアーに関するご質問は各大学生協トラベルカウンターまたは、pkg-u@univcoop.or.jp までお問い合わせください。(大学名、氏名、連絡先をお知らせください。)
大学生協旅行センターWEBサイトからもお問い合わせいただけます。http://travel.univcoop.or.jp/